

麻生健二教授追悼号に寄せて

商学部長 浅田 毅 衛

故麻生健二教授が1995年9月20日に肝硬変で死去されたとの報に接してから、はや1年4カ月の歳月が流れ、時移り事去るとはいえ先生の死は、私たち商学部教員にとって今新たに一大痛恨事として想起こされるのである。

先生は教授会で商学部教育問題について明快な意見を述べられて貢献し、経理研究所の副所長として所員の公認会計士の合格に寄与され、また、学生には酒を混じえての交わりの中で尊敬され親しまれ、研究者としては緻密に資料を集めて整理し、パソコンを駆使しながら研究する姿は、史料を大事にして研究しなければならない歴史専攻者の私にはそれが羨ましく敬服していた。そのうえ、先生はスキー・テニスが好きで上手なスポーツマンであり、私も一度テニスを手合わせしたことが懐しく想起こされ、淋しさが込みあげてくる。

私たち大学教育の職場での59才という年齢は、円熟したこれからの年であり、先生の死は研究において、教育においても志なかばの死であり、私たちはもとより先生自身も口悔しく痛恨の情を禁じ得えないものがある。

9月23日・24日の上野寛永寺輪王殿での通夜・葬儀・告別式での残されたご遺族の淋しく哀しいお姿が今も私の脳裏に染み込み、離れない。先生の父であり、私には恩師でもある平八郎先生のお姿、お若く美しい陽子奥様のお姿、幼い学童・生徒姿の皆さん達のお姿が労しく臉に焼きついている。心よりお悔やみを申しあげ、これからも強く先生の意志を継いで頑張って生活して下さることを心よりお願いいたします。

麻生健二教授追悼号の発刊に寄せて、志なかばに倒れられ、口悔しい想いを残して幽明境を異にされてしまった先生の霊が、この書の刊行によって少しでも慰められるならばと願っています。合せて先生のご冥福を謹んでお祈り申しあげるとともに、これから残された商学部教授会員が先生の志を継ぎ、教育・研究への一層の精進をお誓いして、麻生教授への哀悼の言葉とさせていただきます。